

Why are Korean dramas so popular?

英語班：大西 祥依 向井 柚奈

要約

本研究では韓国ドラマがなぜ人気なのかについて研究し、韓国ドラマと日本ドラマを比較し、年々ドラマが視聴率が下降し続けている日本ドラマが面白くなる改善点を韓国ドラマの制作過程や視聴者においての良い点を見つけ、それらを参考にして考えた。

Abstract

Korean dramas have been very popular among Japanese on SNS or TV. We compared between Korean dramas and Japanese dramas and researched on what elements have made Korean dramas so popular and how Japanese dramas can be improved. We found that Korean dramas have some characteristic features which attract the audience and cannot be seen in Japanese dramas. It can be said that we can make Japanese dramas more attractive using the techniques which are used in Korean dramas.

1. 序論

海外でも人気を集めている韓国ドラマと日本国内で放送される日本ドラマのドラマに大きな違いがあるのを実感し、なぜその違いが生まれるのか気になったので、調べることにした。そこで、私たちは視聴者のニーズと脚本に注目して調べた。

2. 研究手法

主にインターネットを利用して研究した。

①視聴者のニーズについては、視聴者の要望や意見が一番反映されているのはドラマの掲示板であるのではないかと仮定し、視聴者の意見を参考にするために日本と韓国それぞれの有名な掲示板サイトを利用した。日本は「YAHOO TV ガイド」、韓国は「NAVER」だ。韓国では現地の人々の意見を取り入れられるよう韓国語でドラマ名を検索し、視聴者の掲示板に乗っていた意見を翻訳した。比べた映画は日本は「テセウスの船」、韓国は「梨泰院クラス」だ。この両者を比べた理由としては、両者とも、放送された時期が2020年で、平均視聴率が「テセウスの船」が11.8%、「梨泰院クラス」が11.9%とほとんど同じ数値であるからだ。そこではコメント数やコメントの内容について調べる。

②脚本については、「One more KOREA」というサイトを参考にして研究した。そこで見つけたドラマに必要な要素についてさらに詳しく調べ、実際のドラマにその要素が活用されているかについて調べた。

3. 結果

視聴者のニーズについて分かったことは、両国の掲示板へのコメント数の違いだ。「テセウスの船」は約 4400 件、「梨泰院クラス」は約 80 万件だった。ここでコメント数の大きな差が見られた。コメント数だけでは視聴者のニーズについてはあまりわからないため、コメントを翻訳して比較したが、日本の掲示板には例にあげられるような具体的なコメントが見られず、韓国の方も掲示板に具体的なものが乗っていなかった。

続いて脚本について分かったことは韓国のドラマの脚本には主に二つの要素が含まれていることがわかった。それらは「リアリティ」と「ドラマの斬新さ」だ。リアリティについては、実際韓国のドラマの制作過程について調べた。例えば「愛の不時着」というドラマだ。このドラマの主な内容は、パラグライダー事故で北朝鮮に不時着してしまった韓国人女性と、その彼女を守る北朝鮮の将校の運命的な恋を描くというものである。その例から調べていくと、実際韓国ドラマの製作はチーム体制で行われることが多いことがわかった。脚本を一人で作成するのではなく、複数人でチームを作り、脚本作りを行う。なぜなら、製本においてリアリティは直接完成度につながるため、専門的な知識や経験によって脚本の完成度を高めるための専門家や調査チームが必ず必要だからだ。「愛の不時着」の制作過程では、北朝鮮出身者の補助作家を置きながら、脱北者への緻密なインタビューを重ねた。ドラマのリアリティを求めらるうで大事なことは、完成度を高めるために、専門的な知識や経験によって脚本の完成度を高めるための専門家や調査チームが必要だからだ。一方日本のドラマは、テレビ局や芸能プロダクションの力が大きいため脚本家はその意向に合わせて書いているのが現実である。そのことからドラマの本質ともいえる脚本が起点でも中心でもなくなっている。

次に「ドラマの斬新さ」についてだ。韓国では、映画や演劇など常にエンターテイメントが身近にある韓国人にとってドラマの完成度と同じぐらいドラマの斬新さというものは重要視される。ここ最近では韓国では新人作家による脚本が注目を集めた。なぜなら、チーム体制で脚本を作るため、多少完成度が低くてもプロデューサーや企画担当者、専門家などと協力して作ることによって良い作品の岩石を見つければいくらかでもチームを補完できるからだ。実際韓国では、韓国のゴールデングローブ賞といわれる百層芸術大賞では、何度も新人作家の作品が大賞や作品賞に入っている。さらに現在では、小さく視聴者の反応を試せる編成枠や、ウェブドラマ、動画配信サービスのオリジナルドラマなど新人作家が実力を試したり、経験を積める場所がたくさんある。また、近年ドラマの原稿料の高騰や、中国での韓国コンテンツの輸入を禁止する「禁韓令」の発令などによりドラマの制作費を抑える必要があった。

4. 考察

コメントの内容は具体的でなかったが、実際コメント数に大きな差が出ているのは事実である。なぜこのような差が生まれたのか疑問に思い、そこで韓国のインターネットの普及率について調べた。韓国のインターネットの普及率は世界で上位に入っていることがわかった。このことから、韓国人はインターネットへの関心が高いのと同時に、掲示板のコメント数からも見て、エンターテイメントへの関心も高いのではないかと考察した。「One more KOREA」では、韓国人の視聴者は放送中の動画の分析動画やパロディをあげると書かれていた。実際 YouTube

で調べると、かんこくドラマの分析動画が多く出てきた。分析動画をあげているのはドラマ評論家ではなく、ただの一般視聴者に過ぎないこと、つまり韓国人視聴者はドラマを見る目がとても優れていることがわかる。韓国人のエンターテインメントへの関心の高さと、ドラマを見る視点から、ドラマが面白くなるカギを握っているのは視聴者であると考察した。続いてドラマの製作についてだ。韓国ドラマはチーム体制で作上げられることがわかった。このような体制によって、一人の作家だけでは書き上げきれないような細部までリアリティと共感の詰まった脚本を完成させることができたと考察した。

5. 結論

以上の考察から日本ドラマがより面白くなるような改善策は、優れた視聴者とチーム体制でのドラマ作成であると結論付ける。日本ドラマは現在視聴率が年々減少している。日本ドラマをよくするためにはまず視聴者がもっとエンターテインメントに関心を持って、関心を持つだけでなく、自分の意見、要求をインターネットに発信すること、制作側が斬新さを交えつつたくさんの人と協力して、チームとなり細部までこだわってドラマを作ることだと考えた。

6. 参考文献

One More Korea 『韓国ドラマ：強さの理由①面白い作品が生まれ続ける理由』

https://onemore-korea.site/contents/drama_column_200911/

NAVER <https://www.naver.com/>

YAHOO! JAPAN テレビ <https://tv.yahoo.co.jp/>